

## 広範囲で多数の施工箇所の進捗の一元管理が可能

調査・計画

連立高架化

連立地下化

駅改良

単線立体  
(上空・地下)

耐震補強

ICT技術

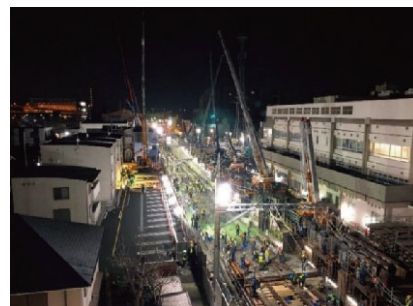
### お客様のメリット

- 作業進捗状況を一元管理することにより、作業の遅れや問題点を早期に発見することが可能です。
- 工事担当者が直接工事進捗を入力するため、リアルタイムな状況把握が可能です。
- 工事進捗はスマートフォンやタブレットにより誰でも確認が可能です。

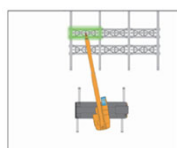
### 技術の特徴

線路の切換工事では、限られた時間の中で様々な種類の作業の進捗管理を行いながら、計画的に施工を進める必要があります。従来は、進捗確認を書面・無線でやりとりを行って管理していました。本システムでは、工事担当者がスマートフォンやタブレットを利用して進捗状況を入力するため、リアルタイムの情報を関係者全員で共有することが可能です。

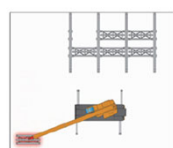
また、事務所にモニタ表示をすることで、作業の遅れや問題点を一元管理し、適切な対応を早期に行うことが可能です。



クレーン撤去区間施工状況



工事桁撤去作業開始



工事桁撤去作業完了

作業の入力方法と表示画面の一例

#### ① 工事桁撤去作業開始

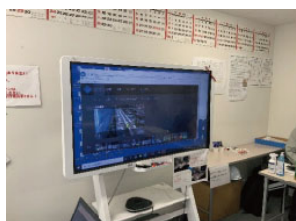
撤去作業開始を現地担当社員が確認後、スマートフォン、iPad等にて進捗状況を入力する。画面の「進む」を押す。進捗状況表示画面のオレンジバーが表示を開始する。

#### ② 工事桁撤去作業中

クレーンブームが撤去する桁の方向に旋回し、撤去する工事桁が緑色に表示される。

#### ③ 工事桁撤去完了

撤去完了を現地担当社員が確認後、スマートフォン等の入力画面の「進む」を押すと次の作業に移り、撤去した工事桁は赤色表示となるとともに、進捗状況表示画面（全体図）から表示が消える。進捗状況表示画面のオレンジバーが時間工程実績を示す。



JR東日本渋谷駅埼京線下り切換作業における監視システム運用状況 / 撮影協力：JR東日本

### 実績・事例

京浜急行電鉄大師線地下化、JR東日本渋谷駅改良中央工区